

## 手足口病の注意喚起について

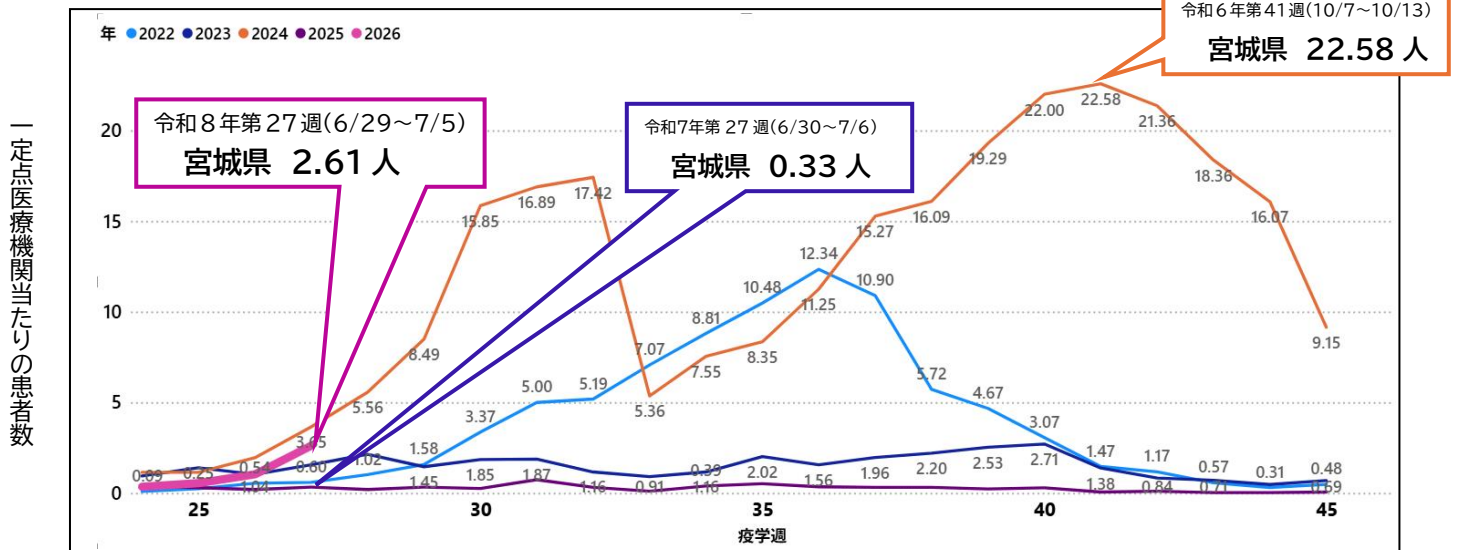
県内で乳幼児の手足口病患者が増加しています。

県が実施している感染症発生動向調査の令和8年第27週(6/29~7/5)において、仙南保健所及び塩釜保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が、令和6年度まで運用していた警報開始基準(5人)を超えています。

手足口病は、夏季に流行のピークを迎える感染症です。乳幼児を中心に流行しますが、大人も感染し、重症化することがあります。今後、感染者の増加が予想されますので、感染拡大を予防するため、食事の前や排泄後の石けんと流水による手洗いの徹底等をお願いします。

### ○ 各保健所管内における1定点医療機関当たりの手足口病患者報告数

	保健所名						宮城県(合計)
	仙南	塩釜	大崎	石巻	気仙沼	仙台	
23週 (6/1~6/7)	0人	0.67人	0人	0.67人	0人	0.33人	0.35人
24週 (6/8~6/14)	0.50人	1.50人	0人	0人	0人	0.07人	0.35人
25週 (6/15~6/21)	0人	0.83人	1.33人	0人	0人	0.53人	0.55人
26週 (6/22~6/28)	1.50人	1.50人	2.00人	0人	0人	0.93人	1.03人
27週 (6/29~7/5)	5.50人	5.33人	2.00人	0人	0人	2.13人	2.61人



## ～手足口病の予防～

- 1 食事の前や排泄後、おむつ交換の後など、こまめに石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 2 家族や身近な方が感染した場合は、タオルの共用を避けましょう。
- 3 乳幼児がよく触れる場所やおもちゃなどは、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が有効です。
- 4 熱中症には十分注意した上で、場面に応じてマスクを正しく着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

## ～手足口病とは～

原因：コクサッキーウイルス及びエンテロウイルスへの感染です。

症状：口の中や手のひら、足の甲または裏などに2～3mmの水疱性の発しんが現れます。

発熱は発症した人の約3分の1に起こりますが、38℃以下のことがほとんどです。

基本的には3～7日で自然に治りますが、稀に重い合併症等を引き起こす場合があります。

好発年齢：乳幼児を中心に流行します。

潜伏期間：3～5日

感染経路：飛沫感染(咳やくしゃみで飛散した飛沫の中のウイルスにより感染します。)

接触感染(水疱の内容物や便に排出されたウイルスが付着した手で口や鼻などの粘膜に触れることにより感染します。)

治療方法：症状を緩和する対症療法が行われます。

その他：治った後も、2～4週間は便と一緒にウイルスが排泄されることがあるため気をつけましょう。

上記の症状が見られる場合は早めに医療機関を受診しましょう。特に乳幼児同士の接触が起こりやすい保育施設や幼稚園などでは感染が広がりやすいため、子どもの体調の変化に気をつけましょう。

### ○ 参考となるホームページ

厚生労働省「手足口病に関するQ&A」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/hfmd.html>

国立感染症研究所「手足口病とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/441-hfmd.html>

宮城県結核・感染症情報センター

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/hokans/kansen-center.html>